

結ゆめ 身に向かへ

本日の入学式にあたり、多数のご来賓の方々並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成二十八年度福島第二中学校入学式を挙行できますこと、謹んで御礼申し上げます。

八十四名の新入生の皆さん、入学おめでとう。

学校は道場であり、憩いの場です。

道場とは、修行の場です。頭と心と体を鍛える場です。

将来、皆さんが自分自身の力で進路を切り拓いていくための知識、技術を身につけ、たくましい心、強い体を養う場です。

人は新しいスタートラインに立った時、以前とは違う自分になれるような期待や、もつと向上したいという願いを持つものです。

自分の夢や志を達成するためには、何よりも自分自身が動き出さなければよい方向には向きません。皆が心がける「生徒信条」があります。

時を守り、場を清め、礼を正す

“時を守り”とは時間を守ることです。この意味は、相手からの信用を積み重ねるということです。

“場を清め”とは掃除をすることです。この意味は、人のために尽くすということです。

ゴミを一つ拾えば一つだけきれいになります。毎日、十分間人のために尽くしましょう。

“礼を正す”とはあいさつ、返事をするということです。この意味は、心を開いて相手に迫るということです。

誰に会っても誰に呼ばれても

相手に聞こえる大きな声で相手が気持ちよくなるあいさつ、返事をしましょう。

時を守り、場を清め、礼を正す

二中の生徒、教師が心一つにしてこのことを実践し、家庭に地域に広げていきましょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご入学を心よりお喜び申し上げます。

本日より大切なお子様をお預かりします。教職員一同、全力をあげて指導に当たる所存でございます。

震災から五年が経過し、私たち大人は、未来からの贈り物であるこの子たちのために、何を語り、何を伝えていくのか、その責任が問われています。

その毅然とした姿は、子どもたちの心にしっかり刻み込まれるものと信じます。

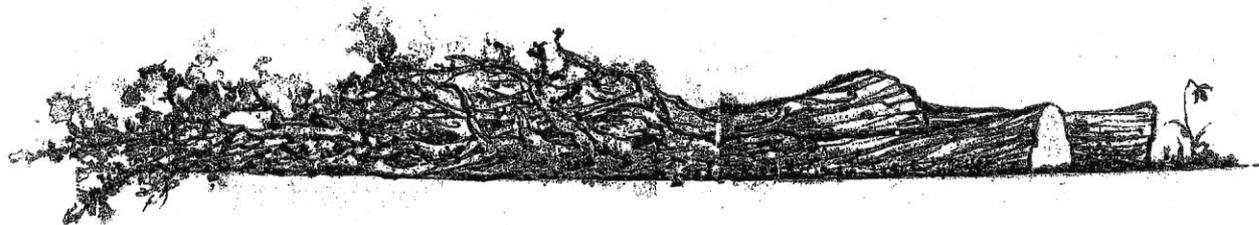
どうかお子様の輝かしい未来を切り拓くためにも、保護者の皆様と地域の方々との強い絆づくりに向けたご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十八年四月六日
福島市立福島第二中学校長 佐藤 和彦

福二
校長室
だより

ほろろ草

NO.94



雨が降っても、曇っていても、見える、雲の上には太陽がある
深澤義曼
人間のうたより